

令和6年度（2024）

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園

専門学校穴吹コンピュータカレッジ

# 学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園 専門学校穴吹コンピュータカレッジ 学校関係者評価委員会は、令和5年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施致しましたので、ご報告致します。

令和6年11月26日

学校法人穴吹学園 専門学校穴吹コンピュータカレッジ  
学校関係者評価委員会

## 1. 学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて専門学校穴吹コンピュータカレッジの自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、専門学校穴吹コンピュータカレッジが行った教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

## 2. 学校関係者評価委員会

(委員)

佐藤 扶美子 香川県立高松東高等学校校長  
尾本 昭宣 株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部  
田中 雅子 株式会社たかせんテレコム 業務部  
島 薫 本校卒業生  
富田 武久 本校在校生保護者

(学校教職員)

佐戸 三千代 専門学校穴吹コンピュータカレッジ 校長  
壽福 英尚 専門学校穴吹コンピュータカレッジ 副校長  
榎本 靖之 専門学校穴吹コンピュータカレッジ 教務課長

## 3. 学校関係者評価委員会実施日時

開催日時 令和6年11月26日(火) 14:00～16:00

開催場所 学校法人穴吹学園 専門学校穴吹コンピュータカレッジ テクノホール

## 4. 自己評価結果の説明・報告(自己評価報告書参照)

当校の「教育理念」、「目的」及び「令和5年度の目標と計画」について説明。各自己評価項目について「評価結果(総括)」、と「取組状況とその分析」、「今後の改善方策等」について報告。書式は、香川県版一般社団法人香川県専修学校各種学校連合会様式にて実施。

各評価項目について、「A」十分である 「B」おおむね十分である 「C」やや不十分である 「D」不十分である の4段階にて評価。

5. 副校長より本校を取り巻く状況について説明（自己評価報告書より）

・教育理念・目的・育人人材像(評価 A)

・学校運営(評価 A)

業務関連(承認申請、稟議書、勤務カードなど)のペーパーレス化が進んでいる。  
グループウェア、一人1台 PC

・教育活動(評価 A)

教育課程編成委員会を年2回開催し、カリキュラムの改訂、改善を行っている。

AIテクノロジー学科が職業実践専門課程の申請中

キャリアサポーター資格取得者を組織として段階的に増やし、キャリア教育を実施している。

授業評価アンケート結果を教員にフィードバックすることで学生ニーズに即した授業の改善に繋がっている。

穴吹総合教育研究所による授業モニターにより、そこから見える改善点を教員にフィードバックをすることで教授力の向上を高めている。

令和8年より単位制への移行する予定である。

インターンシップでは必ず外部による評価を実施している。

定年退職者が増えてきているため、人材確保・育成が今後の課題となる。

教員の能力向上に向けた研修を年間ひとり15時間以上受講することを学園として推奨している。

県内の他の専修学校・各種学校と協力、連携した教育ができていないので、改善が必要である。

・学習成果(評価 A)

関係業界への就職については教務とキャリアセンターが協力し、業界就職率向上に努めている。

業界内定率：86%

香川県内への就職率の改善見込みが必要である。

・学習支援(評価 A)

より高度な学習・研究ができるよう大学等との併修又は接続が可能な体制などを引き続き検討する必要がある。

令和5年度から学生相談の窓口として校内カウンセラーを設置し、個別面談を通して学生が抱えている悩みに対してヒアリングできる体制を整えている。

Hyper-QU アンケート結果を使って、不満足度を確認および孤立学生の早期発見に努めている。

保護者総会、保護者支部会を毎年実施し、保護者とのコミュニケーションを図っている。

卒業生への支援体制ができていない為、改善が必要である。

・教育環境(評価 A)

コロナ前と同様に優秀生海外研修や各種海外研修を実施できるようになった。

・学生募集と受け入れ(評価 A)

社会人の学びなおしを目的にネットワークセキュリティ学科が教育訓練給付金制度の認定を

受けている。

・財務(評価 A)

黒字経営、健全な運営が出来ている。

・法令等の遵守(評価 A)

・社会貢献・地域貢献(評価 A)

通常の出前授業以外に、文科省事業である「専門学校と高等学校との有機的連携プログラム開発と実証事業」において県下8つの高校と連携し、「総合的な探求の授業」で指導、助言を行っている。

・総括(評価 A)

自己評価結果(評価 A)

<令和5年目標>

入学者 55 名に対し 49 名のため、目標未達成  
退学率 3%未満に対し 1.9%のため、目標達成  
C1 企業内定率 40%に対し 48%のため、目標達成

<令和6年目標>

入学目標 57 名  
退学率 3%未満  
就職希望者 2 月全員内定の達成

6. 添付資料について説明

- ①カリキュラムおよび検定、就職実績報告について
- ②保護者アンケート結果について

7. 外部委員より意見・質問

①佐藤委員

高校1年生から職業教育にも取り組みをしているが、一部の学生は学習意欲がない、将来の目標を持っていない現状がある。

大学、専門学校への進学は、本人の希望を重視しているとのこと。

また、専門学校入学後から卒業後の姿をもっと広報することが重要ではないかと思われる。

②尾本委員

社会で活躍できる力を証明するためにも資格取得率、合格率の改善に期待したい。

また、応用情報など上位資格の取得することも頑張っていたきたい。

③田中委員

産学連携で行っているホームページ制作について、ホームページだけでなく、Instagram や X などの活用も検討が必要と思われる。

また、サイトへのアクセス情報などを分析する授業の取り組み状況についての質問があり、今年度の授業で取り組みを始めたことを報告する。

学生募集についても Instagram や X などを活用してはというご意見を頂戴する。

貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。これからも皆様のご期待に添えますよう、教職員一同、日々努力して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

以上